

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100632		
法人名	有限会社 佑紀苑		
事業所名	グループホーム佑紀苑 佐賀		
所在地	佐賀市兵庫町大字若宮字野中2125番地1		
自己評価作成日	平成26年3月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成26年3月18日	外部評価確定日	平成26年4月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>四季折々の田園風景の中で、入居者の皆様は自然に親しみ、苑内の自然な明るさの中で、ゆったりとした時間を過ごして頂いている。時には、思い思いのひと時を待ちながら、いつも苑内からは笑い声が聞こえてくる。職員は入居者の皆様のニーズに真摯に向きあい、今、持っている力を使って、出来る限り自立した、生活がお出来るようになる様に支援を行っている。地域の皆様との、ふれあいもあり、温かい支援を頂いている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>田畑や川が流れるふるさとの景色の中で、ゆったりと送れる毎日の生活は、入居者が余生を送る為の素晴らしい環境である。開設しちょうど10年を迎えるホームは、入居者と職員が開設当時から馴染みの関係を継続し、家庭的で温かい雰囲気が窺える。入居年数が長い入居者は、身体的に重度化されているが、重度になっても職員や入居者に見守られながら、家族と共に支える体制が出来ている。これまでの運営を通じ、家族との関係を構築し、家族の思いを受け入れることで、入居者と家族の満足を得、そのことが職員の前向きな姿勢に繋がっている。このホームの特徴は？と問えば「笑顔です！！」という職員の即答があった。入居者と共に畑作業をし、下ごしらえ、食卓に並べ、職員との楽しい食事をすることが元気の源である。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目に着く場所に理念を掲示している。毎朝の申し送り事に唱和をし、理念の下に業務を遂行している。又、スタッフ全員の思いを理念にと現在新たな理念作りを行っている。	理念は「安らぎと安心のある楽しい生活を一緒にしましょう」とあるが、理念を基に、職員個々にケアへの思いを書いてもらい、日常のケアに活かせるような取組がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	一年を通して地域の行事・活動には入居者・職員共に参加し地域の方々と交流をしている。	地区の一員として区費を払い、カン拾いや草刈り等区役へ参加している。回覧板を持参してもらい情報を得ている。近所の方が犬の散歩でホームに立ち寄りたり、野菜を頂くことも多く、日常的な交流がある。地域の敬老会へも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	苑で行事を行う際は、地域の皆様に招待し交流を深めている。地域での敬老会・公民館の行事・清掃活動等にも参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族・入居者・地域の代表の皆様に参加して頂き、2ヶ月1回、入居者様・職員の活動・状態等の報告をし意見の交流を行っている。出席者の皆様より、地域の行事へのお誘いや助言等を頂いている。	定期的に会議を開催し、地域の情報を得たり、家族の意見を伺っている。災害避難訓練に関する協力依頼や、農道へのミラーの設置をお願いするなど、ホームからも地域の方へ依頼している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者の方とは、運営推進会議への出席のほか、支援センターとの情報交換や相談が気軽に出来ている。	中部広域の研修会に参加したり、市ヘテラシを配布し、空き情報を伝え、市からは見学に来てもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロへ」のケアに対し、日々取り組んでいます。資料等は事務所の目に着く場所に掲示し、疑問に感じた時は、勉強会を行いケアの向上に努めている。	県や広域の研修会に参加し、ホームでもケアの工夫により、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の鍵も夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての資料を事務所内に掲示し、ご家族との交流や利用者の変化等を見逃す事なく業務を遂行している。	2014/4/21	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修報告書をもとにスキルアップに努めている。運営推進会議に於いて地域包括の担当者より学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・退去時の際は、代表者・管理者が説明を行い、理解・納得をして頂いている。疑問点にも十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では、交代で入居者・ご家族の出席を頂き、ご意見・要望等をお聞きする様に行っている。面会時にも、ご家族の心配ごとなど、お聞きしている。ご自分の気持ちを出せない方には、日々の関わりのなかでの気づきを大切にしている。	日頃から、家族との関係を大切に考えている。家族のニーズの把握に努め、相談を気軽にしてもらえるよう、面会時は職員から近況報告をしている。定期的なホーム便りにも、個別の近況をを記入し、理解いただいている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時は、小さい事でも、意見の交換を行い、定例のミーティングには、代表者も出席し、職員の意見を聞き、提案によっては、直ぐに反映させている。	職員からは、毎日の申し送り、毎月のミーティングで意見を気軽に言ってもらう。ケアについての意見が多いが、運営に関する提案等も、いつでも言える職員関係である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいを失わず、向上心をもって働けるように、子育て中の職員への配慮、個々の家庭状況の希望を聞き、勤務形態に取り組んでいる。継続して働けるように、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修後には、定例のミーティングに於いて報告や、回覧等で全職員に周知徹底してもらっている。又、カンファレンス時には、事例をもとに検討会を行い、日々業務の中でトレーニングが行えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修には、積極的に参加し同業者との交流をはかり、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	体験入居などで馴染みやすい環境を事前に作る工夫をしている。入居時にはご家族と一緒に家具の配置をしたり、入居後落ち着かれるまではご家族に来て頂いたり本人が困っている時、不安な時、側でゆっくりと話を聞きながら安心を確保する為の関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いに耳を傾け、苑の雰囲気や環境を理解して頂いた上で不安な事や要望はないかよく聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族を思いを聞きながら、今必要とされている支援は何か、何か望ましいかその方々にあった対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できない事への支援を行う一方、できる事は協力して頂いたり、人生の先輩として知恵を貸してもらったり、時には助け合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には、本人と家族の絆を大切にしながら職員も交え楽しく語らえる関係を築いている。状態の報告やご本人の要望を伝え、時にはご家族にも協力を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた方との繋がりを大切に、外出・外泊の支援に努めている。行事には、一人でも多くのご家族と一緒に過ぎて頂ける様に案内をしている。	電話や手紙の支援の他、住み馴れた家へドライブに出かけたり、近所からの面会もある。地域の敬老会に参加し、ホームの敬老会にも近隣の方を招待している。家族との関係も大切に考え、協力依頼をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時には入居者同士の意見の食い違い等があるが助け合い、支え合う関係が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もつながりを大切にしている。訪問したり、退居者のご家族が会いに来られたる、その後の支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時には、ご家族の方に、暮らしの情報等、記入して頂き、本人の希望や日々の暮らし、これまでの生活のエピソード等お聞きし、本人を主体に検討している。	日頃の関わりの中で、ふと発する言葉を大切に、センター方式のアセスメント様式を利用し、職員が共有するなど、思いや意向の把握に努めている。日常の記録にも本人の言葉をそのまま記録するようにし、思いが伝わる内容となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	古い写真を持ってきて頂いたり、面会に見えた折には、お部屋にてご本人を交え、今までの生活を話して頂く様な雰囲気作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりと向き合いながら、どのように過ごしたら楽しく、笑いのある生活が出来るか、又生活の中でお手伝いをして頂いたりしながら、有する力等の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスや毎朝の申し送りの際に、ケアの見直しが必要な事案がある場合は、スタッフ全員で検討し本人、家族様と話し合いながら介護計画書を作成している。	アセスメントを丁寧に記入し、本人と家族の思いを受け止め、それがニーズに結び付いている。経過記録や定期的な見直しもされている。家族が話し合いに参加できないときは、個別に説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアに対しての意見や気づき、対応の仕方の見直し等は職員間で情報を共有し、実践している。職員間の申し送り簿には思いやりのある意見もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの思いを大切に、ご家族、入居者の皆様には柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年の兵庫町の文化祭には、見学に行ったり、作品の提出依頼を受けたり、自治会主催の清掃等に参加したり、心身の力を発揮しながら豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	既にかかりつけ医をおもちの方は、継続して頂いている。受診の際には、日々の状態やバイタル表を主治医に提出し、ご家族の都合がつかない時には職員が付き添い、結果は随時報告している。かかりつけ医の往診の方もあり急変時には適切な指示を頂いている。	本人や家族の希望により、かかりつけ医を決めている。受診は、家族が無理な時は職員が付き添う。医療機関へは、バイタル表等の情報を提供し、指示を受けている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日々の状態やバイタルがいつもと違うと判断することで、看護職員へ状態を伝え、緊急を要する時には看護師が主治医と連絡を取り適切な受診や看護を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をされた時はグループホームでの生活の情報を提供し、環境の変化で不安や混乱が発生しない様に職員はできる限り面会に行き安心感を持って頂いている。退院時も病院の担当者と密に連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約時に重度化した場合に於ける対応に係る指針、ターミナルケアの指針を入居者様、ご家族様へ説明し同意を得ている。重度化になる以前より主治医、ご本人、ご家族様と話し合いの場を持ちながら、看護、介護の面からの支援に取り組んでいる。	重度化した場合や、ターミナルについての指針を作成し、入居時に説明している。これまで重度化された方には、状態に応じ段階的に話し合いをし、医療との連携を取りながら対応した。本人と家族の意向を一番に考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月のミーティングの折には、事務所内に掲示している急変マニュアルを読み返したり、研修を受けた職員は報告書と共に他の職員へ伝達している。応急手当や初期対応は看護師より定期的に指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、日中と夜間を想定した、避難、消火訓練を実施している。佐賀広域消防局より職員の派遣をお願いし、指導を受けている。その折には、地域よりも参加頂いている。災害に備えて毎朝、立ち上がりの訓練を行っている。苑内には災害時の連絡網や避難場所への経	消防署の指導を依頼し、定期的に避難訓練を行っている。運営推進会議で協力を依頼し、地元自治会の協力を得ている。近隣在住の職員も多く、消防団の協力もあり、前もって居室や身体の状態を伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、自尊心を傷つけないよう心掛けている。個人情報については誓約書を交わし対応している。	県の認知症研修や接遇研修に参加し、一人ひとりの尊厳を大切にケアの実践に努めている。ホームの勉強会では、日頃のケアを振り返る機会を設け、意見を聞いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を日常生活の会話・行動の中から引き出したり、本人の希望ができるよう言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の健康状態を考慮しながら、一人ひとりのペースで思い通りに過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事の際には一緒に服を選んだり、二か月に一回散髪に来て頂き支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好物や嗜好に配慮しながら、季節の物を取り入れたり、苑の畑より収穫した食材を使用する事もある。食事の際は、職員も一緒にテーブルにつき楽しく食事が摂れるように支援している。おにぎりを希望される方には、毎食提供している。テーブル拭き・後片付けなどお手伝いをお願いしている。	入居者が出来ることを支援し、畑作業やスーパーへの買い物、料理の下ごしらえ、テーブル拭き等役割を持ってもらう。職員も同じ食事を一緒に、ゆっくりとおしゃべりしながら食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士にてバランスのとれた食事の提供が出来ている。一人ひとりの状態に応じた食事形態もペースト状やお粥などその方にあった支援をしている。個々の食事量、水分量の把握も出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っており、毎食後の口腔ケアの支援を行っている。週一回は職員が入歯洗浄を行っている。必要に応じ歯科受診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に記録する事で、一人ひとりの排泄パターンを把握しその方にあった声かけや誘導を行っている。	排泄チェック表を利用し、個々のパターンに応じた支援をしている。おむつを使用されている方もトイレに誘導し、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの摂れた食事の提供、水分量にも注意を払っている。本人の体調や状態にも配慮しながら、かるい運動や天気の良い日には散歩も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりのその日の体調に配慮しながら、皆様がゆっくりとした気分で入浴出来る様に、希望やタイミングに合わせて支援しています	一日置きの入浴を基本としているが、入居者の希望や、体調に応じ臨機応変に入っていたり、誘導の工夫で気持ちよく入っていただくよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状態に応じ思い思いに休息したゆっくり過して頂ける様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく処方された薬に関しては必ず申し送りをし、服薬後の症状の変化についても記録を行い情報を共有している。服薬の際にはミスがないかもう一度確認し手渡しをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの状態に応じ、生活歴や力を活かして役割を持って頂いている。趣味やレクリエーションで気分転換して頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの状態にも配慮しながら外出の支援を行っている。季節を感じて頂けるよう花見や清流見学等も行っている。家族の協力を得て映画感想・外食や墓参り思い出の場所への外出支援を行っている。	季節折々の花見には、弁当を持参し出かけている。喫茶店で、ケーキやコーヒー等好みの物を選んでもらったり、スーパーへの買い物は、日常的に出かけている。個別の外出は、家族に協力を頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じ、苑で預かったり希望があれば使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話をかけた、手紙が届いた際には手渡し、ご家族とのやり取りができるようスタッフが付き添い、電話をかけるなど支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは日当たりが良く、窓から見える景色は季節を感じさせられる。入居者様と職員と一緒に作った毎月ごとの壁画、また行事毎の写真を飾り、不快や混乱を招く刺激がないよう居心地よく過ごせる工夫を行っている。	ホールは明るく、大きな窓から見える田んぼや川の流れて、ふるさとの景色に長閑さを感じる。季節の生け花により室内に季節感があり、キッチンや家具等家庭的である。行事の写真を見て、入居者が思い出話をされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを観ながら、気の合った入居者同士談話をされたり、ソファで寛がれる方、静かに新聞を読まれる方と思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や好みのものを配置したり、ご家族と一緒に写真を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	椅子や引き出し等使い慣れた家具を持参されている。家族の写真に安心感を持たれ、ゆったりと自分らしく過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害物を取り除き、安全な環境の中で一人ひとり持っている力を十分に発揮できるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		2014/4/21	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない